

学会における東洋医学

鍼灸を中心とした東洋医学が米国で浸透するに伴い、それらが米国の学会で取り上げられる機会も増加している。これまでも、優れた研究が様々な学会で発表されたり、漢方メーカーの後援により漢方シンポジウムが開催されるようなことは時おりあった。しかし前者はあくまで限られた特殊例であり、後者は企業が実質的に丸抱えして実現させる力技であるから、これらをもって米国の学会の動きと呼ぶことは無理があろう。

ところが最近の傾向を見ると、多少状況が異なってきたように思われる。すなわち、企業ではなく医療関係者の主導により補完代替医療 (CAM) や東洋医学に焦点をあてた学会が設けられつつあるのである。今回はこのような学会の例を2つあげ、東洋医学がどのように扱われているかをご報告したい。

ニュージャージーでの東洋医学の学会

10月中旬、ニュージャージー州のイースト・ラザフォードで『伝統中国医学 (TCM) に統合の橋をかける』と題する東洋医学の学会が3日間にわたって開催された。主催は伝統中国医学世界財団⁽¹⁾、共催はマウントサイナイ医科大学、ニューヨーク州立大学、ハッケンサック大学、UCLA、シートンホール大学、鍼灸東洋医学大学評議会 (CCAOM) などである。

まず学会前夜にレセプションと開会の瞑想があった。そして初日は朝早くから気功の集いがあり (右写真)、UCLA 東西医学センターの教授が「TCM を現代医療に統合することの利点」という開会の基調講演を行った。その後3会場に別れ「臨床における両医学の協力」「痛みに対する生薬と鍼灸」「精神医療と TCM」というパネルディスカッションが行われた。



昼には「法的倫理的なリスク管理」というランチ

ンセミナーがあり、その後「病院における TCM の統合」「偏頭痛に対する TCM」など6つのワークショップが夕方まで持たれた。そして夕食の後、夜は瞑想についてのパネルディスカッションがあった。

2日目も同様に朝の気功で始まり、シートンホール大学教授の「統合医療の科学的根拠」という基調講演に続いて「婦人科」「がん」などをテーマにして3つのパネルに別れた。食養生についてのランチンセミナーの後、「気功」「不妊」など5つのワークショップが夕方まで行われた。そして夕食の後は夜遅くまでジャズの生演奏とダンスで賑わった。

最終日は朝の気功とコーヒーの後、IBS や症例提示など4演題があり、ネットワーキング・ブランチと称して食事をしながら自由討論を行った。その後夕刻まで「CAM、TCM と乳がん」というワークショップが持たれた。

東洋医学が現代医学にアプローチ

主催者に尋ねると参加者は300人弱、その8割が鍼灸師で2割が医師だという。演者のうち30人は配布された資料に所属と学位が記載されていたが、それによればMD（医師）が15名、PhD（博士）が13名、LAc（鍼灸師）が12名、OMD（東洋医学博士）が5名などであった。なお複数の学位を持つ人が何名もいるため、合計は30を越えている。所属と学位をもとに、各演者の出身を大胆に東洋医学か現代医学かに分けると、ちょうど半々であった。

学会の構成、演者、参加者などを見渡すとこの会のイメージが浮かんでくる。東洋医学の人々が音頭をとってはいるが、現代医学の中にも東洋医学に理解のある組織や人々がおおり、それらが一同に参集して、東洋医学を現代医療の場に生かすことを目指しているようである。同好の士だけが集まったこじんまりした学会で、朝から夜遅くまで盛りだくさんの趣向が用意され、ゆったりとした雰囲気が全体に漂い和やかである。

展示会場にはTCM、サプリメント、検査機器、東洋趣味の置物類、出版社、卸代理店など約30社が展示していた。

漢方を教える鍼灸大学が現れる可能性

余談だが、会場で知り合った鍼灸師から面白い情報を耳にした。彼の関わる鍼灸大学は鍼灸が主体で、現在はまだ本格的な生薬の講義は行われていない。しかし来年度から漢方の講義を始める予定だと言う。TCMでなく日本の漢方かと念を押すと、間違いなく日本の漢方のことである。日本式鍼灸は既に教えており大変好評なので、生薬療法も日本式を教えることになり、講師も確保済みだそうである。

本当にそれが実現するのか見守らなければならないが、考えてみれば数多くの鍼灸大学が設立される中で、このように日本式も学べることで差別化を図ろうとする大学がもっとあちこちに現れても一向に不思議ではない。

ニューヨークでの統合がん治療の学会

2つ目の学会は11月中旬にニューヨークで開催された『統合腫瘍学会 第1回国際会議』⁽²⁾である（右写真）。まず学会組織が興味深い。主催者はジェネンテックとノバルティスである。協賛団体の名前を見ると、冒頭にスローンケタリング記念がんセンター、ダナファーマーがん研究所、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターという米国屈指のがんセンターが3つ並び、さらに米国がん協会（ACS）、米国臨床がん学会



（ASCO）、米国治療放射線腫瘍学会（ASTRO）が続き、いくつかのがん関連財団や全国鍼灸東洋医学認証委員会（NCCAOM）なども名を連ねる。

多彩なCAMが議論の俎上に

3日間にわたり次のような11のセッションが持たれた。「世界各国の統合腫瘍学の現状」というセッションでは欧州大陸、イギリス、オーストラリア、カナダにおける現状報告があった。「がん患者の身

体症状と鍼灸」のセッションでは腰痛、放射線療法による口腔乾燥症、悪心嘔吐、QOL などに対する鍼灸治療が論じられた。「がん患者の身体・精神症状と CAM」では指圧、気功、運動、音楽療法、鍼灸などの効果が報告された。

「がん治療と生薬製剤」のセッションでは1万3千の英文論文をレビューした基調報告があり、フコイダン、ザクロ成分などの研究が発表された。「がん治療と生薬製剤 II」では第1、2相臨床試験のデザインについて教育的な講演があり、さらに中国生薬配合剤、オレアンドリン、センソなどの基礎研究が相次いで報告された。

その他のセッションでも各種の生薬エキスや生薬配合剤の報告があり、さらにホメオパシー製剤、大豆イソフラボン、クメストロール、ビタミン E、エピガロカテキン、クルクミン、サメ軟骨エキス、ベータグルカン、作文療法など様々な CAM についての基礎・臨床研究が発表された。

公的機関も演者を送り、FDAはIND申請⁽³⁾ ガイダンスのセッションを主導し、NCI (国立がんセンター) はCAM研究支援の現状を報告し積極的な相談を促した。統合医療の組織的実践を報告しあうセッションも2つ持たれた。

ポスターセッションでは生薬、キノコ、各種のサプリメント、気功、ヨガ、鍼灸、芸術療法など様々な研究が報告され、また閉会後は同会場において「音楽療法」「鍼灸」「医療マッサージ」「統合・補完医療プログラムの開発」の4つのサテライトシンポジウムが行われた。

スローンケタリングが本草小柴胡湯について発表

発表演題の中から比較的身近な例を紹介する。本草の小柴胡湯の C 型肝炎に対する第 1 相臨床試験の中間成績がスローンケタリングから報告された。31 人に小柴胡湯を 52 週間投与し、前後で肝生検を行い HAI スコアにより肝組織像の改善度を判定するという計画である。10 例が既に投与を完了し、うち 8 例において GOT、GPT が減少し、ウィルス価は 7 例中 4 例で低下した。HAI スコアは 2 例が 2 点以上の改善を示し、組織学的にも改善が裏付けられた。いずれのマーカーでも本草の小柴胡湯は良い結果を示しており、日本漢方が面目を施した報告であった。

中国からは TCM の膵臓がんに対する臨床効果が報告され、韓国からは血管新生を阻害するという韓方処方乳がん患者に対する臨床研究が発表された。

また基礎研究としては、東西生薬 10 種の配合剤が COX-1、2 を阻害し前立腺がん細胞の増殖を抑制するという報告や、子宮がんモデルマウスに対するニンジンやレイシを含む生薬配合剤の作用、50 種の東西生薬や台湾製 TCM のアロマトーゼ阻害活性と乳がん細胞の増殖抑制作用、米国の生薬配合剤 PC-HOPE の抗がん作用の報告などがあつた。

現代医学の主流が真剣に CAM に取り組む

後日入手した資料によれば、学会登録者は約 530 名、うち学位や資格まで登録した人々を分析すると、現代医学系では MD (医師) が 142 名、PhD (博士) が 62 名、RN (研究看護師) が 13 名、MPH (公衆衛生学修士) が 11 名などであった。CAM 系は相対的に少なく LMT (マッサージ療法士) が 34 名、LAc (鍼灸師) が 15 名、OMD (東洋医学博士) と ND (自然療法医師) が各 4 名などを数えた。

60 名以上にのぼる座長と講演者はほぼ現代医学系で占められ、CAM 系は辛うじて鍼灸師かつ理学修士の人が 1 名だけだった。

組織と参加者を見ると、この学会は現代医学の、それも主流に位置する人々を中核としたものであることがわかる。実際会場で何人かの人々と名刺を交換したが、NCI、ハーバード大学、ジョンズホプキ

ンス大学、UCLA、マサチューセッツ総合病院、メイヨークリニックなど高名な施設が多く、この推定をさらに裏付けた。

東洋医学と現代医学が互いに歩み寄る

先に述べた学会が、東洋医学の立場から現代医学に接近するものであるとするなら、後の学会の例は、逆に現代医学がCAMを理解しようとする試みであると言えよう。

ハーバード大学が米国民の生活へのCAMの浸透を医学誌に報告し、医学界が驚きとともに初めてCAMを強く意識したのは1993年のことであった。以来11年目にして、米国ではCAMと医学の主流が互いに歩み寄り、統合医療を目指して共通の対話の場をさまざまな形で持つに至ったのである。

米国における東洋医学と、米国における現代医学は、今まさにこのようにして出会おうとしている。そこから何が生み出されるか、興味は尽きることがない。

参考

- (1) Traditional Chinese Medicine World Foundation. <http://www.tcmworld.org/> January 1, 2005
- (2) Society for Integrative Oncology. <http://www.integrativeonc.org/> January 1, 2005
- (3) IND: Investigational New Drug. 治験用新薬。医薬品承認を目指す新薬候補物質は、臨床試験に進む前に前臨床データなどを提出し、INDとしての承認を得なければならない。サプリメントでも、治療効果を検討するための試験を行う場合はIND承認が必要である。本草小柴胡湯もIND承認を得て臨床試験を行っている。